

本誌には看板連載として「憧鉄雑感」がありますが、毎号ユーモアあふれる文章を楽しみになさっている読者も多いと思います。最近の号では、化粧品や美容医療などののからみも面白く拝読させていただきました。美といえば、本誌増刊号でも「美しく老いるために」と題したテーマを取り上げたことがありますが、皮膚科診療でも「美」ということを意識せざるを得ない時代になっています。

そうすると「皮膚の美しさ」とは何だろう、そもそも「美」とはどういうもののなのだろう、と考えてしまいます。人の心をうつものが「美」だとした場合、それは個人差が大きいはずで、「美」の中には、美しい絵画・風景・容姿などの視覚的美、美しい音楽などの聴覚的美、美しい心などの精神的美などがありますが、どのようなものに心をうたれるかは、個人の感受性およびその基盤にある民族的文化が関係します。よく日本の美意識といった言葉が使われますが、確かにそういったものはあると思います。

「美」という漢語と「うつくしい」という和語は、本来、語感が異なるものです。「うつくし」は、平安時代では「小さいものへの愛情」の意味で使われていましたが、その後、「美」全体を表す意味に変遷していったということはよく知られています。それでは、古代において「美」を表す言葉は何だったかといえば、大野晋先生の著書によると、奈良時代は「くはし」、平安時代は「きよら」が「美」を表す言葉だったようです。「くはし」は、のちには「詳しい、詳細」という意味だけになりましたが、もともと「細かい」というニュアンスの言葉で、「きよら」は「清浄」に通じる言葉です。日本では「くはし」(細の意)→「きよら」(清の意)→「うつくし」(小の意)といったように、細かく小さく清らかなものが「美」を表す言葉であったところに大きな特徴があります。一方、漢字の「美」は、「羊の大なるもの」を表すように、中国では大きく豊かなものが「美」であったのと対照的です。

また、日本人が感じる精神的美に「わび」「さび」があります。「わび」は「侘しい」、「さび」は「寂しい」につながる言葉です。質素、閑寂に、さらに言えば貧、枯にさえ「美」を感じていることも特筆すべきことです。

結局、日本人が「うつくしい」と感じてきたものは、華やかで豊かなものよりも、細かく小さく清らかで質素なもの、といえるのかもしれません。そうすると、日本人が特に「うつくしい」と感じる皮膚は、小さい子のきめ細やかで清らかな皮膚ということになるのでしょうか。でも、年相応の枯れた美も悪くはありませんよ。

(土田哲也)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第65巻 第13号 12月号

2023 年 12 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,190 円 (本体 2,900 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 48,950 円 (本体 44,500 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。